

化粧品アイテム



この章のねらい

身の回りには実に多くの化粧品があります。ほとんど化粧をしないという方でも、顔を洗いシャンプーで洗髪するでしょう。女性に限らず、男性でも毎日必ず化粧品を使っているはずです。本章では、代表的な化粧品アイテムについて、目的別に分類して解説し、働きや成分などについて理解していただこうと思います。原則として、主な化粧品ユーザーである女性を使うであろうアイテムを取り上げました。勿論、すべての方が使っているものばかりではありませんし、新しいジャンルの化粧品まで網羅することはできませんが、基本的なアイテムは取り上げていきます。

I スキンケア

① 洗浄料

スキンケア化粧品として、主に顔のお手入れに使うものを取り上げていきます。基礎化粧品とも呼ばれます。土台となる肌を整えるのが目的ですが、その一番手が洗浄料です。肌の汚れやメーキャップなどを除去するものです。除去する対象により、剤形や使い方に多様なバリエーションがありますが、洗い流すタイプのもの、ふき取るタイプのものが主流です。洗い流すタイプでは、主な成分として界面活性剤が用いられます。界面活性剤は油と水をなじみやすくする性質を有する物質の総称で、炭化水素などの親油基と親水基から構成されています。親水基の性質により、陽イオン性界面活性剤、陰イオン性界面活性剤、両性界面活性剤、非イオン性界面活性剤などに大別されますが **図 1-1**、洗浄料には、陰イオン性界面活性剤や非イオン性界面活性剤がよく使われます。界面活性剤と聞くとよいイメージを持たれないかもしれませんが、水と油などの界面に並び表面張力を低下させる物質の総称で、図に示したものの以外にもタンパク質や高分子、粉体なども界面活性剤としての性質を示す場合もあります。正しく使えば役立つものが多いので、危ないものという先入観はぜひ捨て





親油基	親水基	界面活性剤の種類
炭化水素 $\text{CH}_3-(\text{CH}_2)_n-$	陰イオン $-\text{COO}^-$ $-\text{SO}_3^-$	アオニン界面活性剤
シリコーン $\text{CH}_3-(\text{Si}(\text{CH}_3)_2\text{O})_n-$	陽イオン $-\text{N}^+(\text{CH}_3)_3$	カチオン界面活性剤
	両性イオン $-\text{N}^+(\text{CH}_3)_2-\text{CH}_2\text{COO}^-$	両性界面活性剤
	非イオン $-\text{O}(\text{CH}_2\text{CH}_2\text{O})_n\text{H}$	ノニオン界面活性剤

図 1-1 化粧品に用いられる界面活性剤の構造（模式図）

てください。

ここで大切なことは、過度な洗浄は肌のダメージにつながることで、洗浄の目的は汚れなどを取り除くことですが、過度の洗顔では肌にとって必要な成分まで取り去ることになり、肌の基本機能を損なってしまうこととなります。また、すすぎ残しがあることもダメージの原因となりますので、注意が必要です。

●朝の洗顔

日本では古来より水で洗顔する習慣があります。睡眠中に分泌された皮脂を除くために、石鹸や洗顔クリームなどが用いられます。

●石鹸

脂肪酸ナトリウム塩が基本的な成分で、動物性あるいは植物性の油脂（脂肪酸とグリセリンとのエステル）のアルカリ加水分解により得られます。現在では多くの場合にはヤシなどの植物油が原料として使われています。石鹸は、十分に泡立てて使いますが、皮脂などの油性の汚れを可溶化してよく落とします。しかし、硬度の高い水では泡立ちにくいという性質を有しています。これは、脂肪酸のカルシウム塩やマグネシウム塩などの溶解度が低いために起こる現象です。石鹸で洗顔すると、ややつっぱる感覚になることがあるのも、この脂肪酸金属塩が肌表面に吸着するためと言われています。また、冷水には溶解しにくいという性質

もありますので、ぬるま湯での洗顔が推奨されます。ぬるま湯を用いると、汚れも取り除きやすいですし、洗い流しやすく石鹸も肌に残りにくいというメリットがあります。

●洗顔料

上述のような石鹸のデメリットを克服するために、多くの洗顔料が開発されています。非イオン性界面活性剤（ノニオン界面活性剤）などもよく使われ、さらに泡立ちや泡もちなどに工夫された処方を用いられます。また、石鹸が中性から弱アルカリ性であるのに対して、肌と同じ弱酸性で設計され肌への優しさを訴求した洗顔料も開発されてきています。よく泡立って用いるのが一般的で、細かな泡立てをするために専用の泡立てネットなどを用いる場合もあります。また、ポンプタイプの容器を工夫して、プッシュするだけで細かな泡状の洗顔料を手取るようにできるものもありますし、エアゾールタイプのものも市販されています。

●夜の洗顔

1日の生活を終えると肌の上には、メーキャップ化粧品だけでなく、肌から分泌された皮脂や汗、外界の粉じんなどのさまざまな汚れが吸着しています。これらをしっかり取り除き、肌を手入れするための準備を行うのが、夜の洗顔の目的です。疲れて帰宅が深夜になり、お風呂もそこそこでメイクも落とさず寝てしまった……、という経験も少なくないかもしれません。急に全顔に発疹が出てしまうという事態に陥ることはないかもしれませんが、決してよいことではありません。分泌された皮脂なども含めて、外界からの酸化ストレスを受けた酸化物が残っているはずで、加えて、その日のうちに汚れを落とすという心理面での恩恵も受けることができません。やはり、夜にはメイクを落として、引き続き肌の手入れとともにリセットしてよい眠りにつきたいものです。

●メイク落とし

メーキャップ化粧品の項目で詳しく述べますが、メーキャップ化粧品、特に、アイライン、マスカラ、口紅などのポイントメーキャップは、昼間は崩れたりにじんだりしにくいように設計されています。具体的には油分や被膜剤などが配合されています。この落ちにくいメイクを落とすのがメイク落としの役割そのものですので、いろいろな工夫がされています。基本的には、油分は油分で溶かして落とす、という発想です。ク

レンジングクリームはその代表で、油分を多く含むクリームです。メイクになじませて浮かし、溶けやすくしてから、ティッシュペーパーなどでふき取るという使い方がよく行われます。しかし、落ちにくいメイクは十分には落とせず、ごしごしこすって肌に負担をかけてしまうことになりかねません。そこで、あらかじめ洗浄成分を浸み込ませたシート状のものや、ムース状のもの、入浴中に最後はお湯で流せるようなメイク落としなど、非常に多くのバリエーションが提案されてきています。夜の洗顔では、メイク落としでメーキャップを除去した後に、もう1度洗顔料で洗顔するダブル洗顔が一般的です。この場合、朝の洗顔で用いたものと同じで問題ありません。

② 化粧水・乳液・クリーム・美容液

洗顔で汚れを取った後は、いよいよ肌のお手入れです。それぞれのアイテムについて概説していきます。



●化粧水（ローション）

ふき取り化粧水、柔軟化粧水、収斂化粧水に大別されます。ふき取り化粧水は、ヨーロッパでよく用いられています。ヨーロッパでは、日本と異なりたくさんの水で流しながら洗顔するという習慣が歴史的に少なく、肌の汚れはふき取るのが一般的です。その役割を果たすのがふき取り化粧水で、コットンなどに含ませて肌上の汚れを取り、さっぱりとした仕上がりを実現しています。

柔軟化粧水…日本で最も一般的な化粧水で、肌にうるおいを与えて柔らかくしてくれます。また、引き続いて用いる化粧品のなじみを向上させます。

収斂化粧水…肌を引き締める効果を有する化粧水で、亜鉛華（酸化亜鉛）など粉末を配合してさっぱりとした肌を仕上げてくれます。夏のほてった肌を鎮めるのにも効果的ですが、詳しい肌への作用などは未解明の点もあるようです。

●乳液

化粧水よりも油分を多く含むものです。本来、水と油は相溶せず分離してしましますが、牛乳のように細かな油滴に分散させると、安定で